

## I. 総合判定の結果

( 適合          不適合          保留          )

## II. 総評

評価領域全般にわたって評価基準に適合しています。

評価に至った経緯として、評価基準1では、大学全体の建学の精神、教育理念、学科設置の趣旨と合致した看護学士課程の教育目標を立て、それに基づいた教育課程の枠組みを構成しており、教育目標とディプロマ・ポリシーとの整合性について確認しました。評価基準2では、カリキュラムチェックリストによりディプロマ・ポリシーに基づいた教育内容であることを点検しており、学生が主体的に学ぶための工夫を行っていました。評価基準3では、カリキュラム検討部会においてカリキュラムの点検評価を行っており、さまざまな評価データを用いて教育課程改善に活用していました。評価基準4ではディプロマ・ポリシーと整合性のあるアドミッション・ポリシーを明示し、アドミッション・ポリシーで求めている能力・態度に関連した形態の入学選抜試験を実施していました。

大学所在地である狭山市、入間市の高齢化を踏まえた保健ニーズに対応する社会貢献活動を教育実践に結びつけているところは貴学の特色であると評価しました。中でも、かせい森の産後ケアサロンなど附置施設を活用するしくみがあり、母性看護学・助産学領域を中心に活発に地域貢献していることは特筆すべき取り組みと考えました。さらに、実習前後に実習室を開放しシミュレーション学習を支援するなど、学生が主体的に学ぶための工夫も長所であると評価しました。

看護学教育プログラムの充実・向上のために、教員個々、部会で細やかな取り組みが行われていました。さらなる向上のためには組織的な体制のもと、しくみとして保証され、科目担当者、教育責任者が変わったとしても看護学教育の質が維持・継続されることが重要になります。既に検討が開始されていますが、さまざまな工夫や試みをしくみ・体制として定着させ、その効果を検証する取り組みを引き続き期待したいところです。特に、ディプロマ・ポリシーに示されている能力の評価方法およびディプロマ・ポリシーに照らした卒業時到達レベルの評価方法の検討が必要と考えます。

なお、自己点検・評価は、評価基準・項目ごとに、「現状」と「課題や改善の取り組み状況」について分けてわかりやすく記載されています。しかしながら、評価基準についての理解のずれがみられるところや根拠資料との不一致などがあったのは残念な点でした。今後、看護学教育の質の向上を目指して、自己点検・評価の客観性をさらに高めるよう期待します。